

令和 5 年 5 月 23 日現在

機関番号：35408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12443

研究課題名(和文) 重度認知症高齢者に対する口腔ケアガイドライン実用性の検証

研究課題名(英文) Verification of practicality of oral care guidelines for elderly people with severe dementia

研究代表者

小園 由味恵 (KOZONO, YUMIE)

安田女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：50583928

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：認知症看護と口腔ケアの専門家により、重度認知症高齢者の口腔ケア実践方法について検討し、具体的な方法を確定し口腔ケアチャートを完成した。その後、全国264施設の認知症疾患医療センターを有する医療施設の看護師を対象に、重度認知症高齢者に提供されている口腔ケアの実態調査を実施した。今回の研究により、看護師に対しては、口腔ケアチャートを用いることで、介入方法が明確になり、統一したケアが実施できるという結果が得られた。今後はさらに、ケアを実施することで、重度認知症高齢者にどのような変化が現れるか明らかにしていく必要があると考える。また、病院や施設、在宅においても、このチャートの汎用化を目指している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

我が国において口腔ケアの普及が進捗しないことについて、寺岡(2008)は、科学的な裏付けと費用対効果に疑問を持たれていることも問題の一つで、現状として我が国の口腔ケアの質にはばらつきがあり、評価基準も客観化されていないと指摘している。そこで、本研究において、重度認知症高齢者に対する口腔ケアチャートを開発することで、施設や在宅など臨床現場のケア実施者が、対象者の状態に適した口腔ケアの介入方法を短時間で選択できる。また、口腔ケアの実施方法を明確にすることで、同等の水準での口腔ケア実践が見込まれる。それにより、重度認知症高齢者に対する口腔ケアの質向上、QOLの向上に繋がると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Dementia nursing and oral care specialists examined oral care practice methods for the elderly with severe dementia, determined specific methods, and completed an oral care chart. After that, we conducted a fact-finding survey of oral care provided to the elderly with severe dementia, targeting nurses at medical facilities with 264 dementia disease medical centers nationwide. The results of this study showed that nurses could use oral care charts to clarify intervention methods and provide unified care. In the future, I think it is necessary to clarify what kind of changes appear in the elderly with severe dementia by implementing care. In addition, we aim to generalize this chart in hospitals, facilities, and homes.

研究分野：高齢者看護

キーワード：重度認知症高齢者 ガイドライン 口腔ケア 認知症疾患医療センター

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高齢化の国際的動向として、**2015**年の高齢化率は**8.3%**であったが、**2060**年には**18.1%**にまで上昇すると見込まれている(高齢社会白書、**2016**)。「世界アルツハイマー報告書**2015**」によると、世界の認知症患者数は、**2015**年は約**4680**万人であるが、**2050**年には**3**倍になる可能性があるとして発表された。また、**2015**年の世界の死亡原因の第**3**位は下気道感染症であり(**WHO 2017**)、**7**位がアルツハイマーその他認知症となっていた。認知症高齢者の増加に伴い、誤嚥性肺炎などの合併症の発症率も高まることが知られており(松本一生、**2006**)、認知症の重症化が進むほど口腔内の状態が悪化することも指摘されている(**Gaiz, 他 2006**、**Chen, X. 他 2013**)。また、高齢者は年齢が増すほど肺炎を伴う死亡率が高くなっていった(国民衛生の動向 **2016a**)。しかしながら口腔ケアの実施による誤嚥性肺炎の予防や減少が報告されており(**Yoneyama, 他 1999; Bassim, 他 2008**)、認知症高齢者に適切な口腔ケアを実施することにより、**QOL**の維持向上が見込まれることも報告されている(**Montandon, 他 2006; Astrom, 他 2006**)。認知症病棟を有する病院において、認知症高齢者に日常関わっている看護師および認知症看護認定看護師たちが口腔ケアの必要性を認識しているにもかかわらず、認知症高齢者一人ひとりに適した口腔ケア方法を決定する自信がある看護師は**35.1%**と少ないことが報告されており(諏訪さゆり、**2012**)。認知症高齢者に対する口腔ケアの困難さがうかがえる。以上のことから、認知症ケアの質の確保及び向上の観点からも認知症ケア支援に関するモデル構築や評価指標の必要性が感じられる。そのため、ケア実施者が適した介入方法を決定し、介入技術を保障できる具体的な行動指針となるべき簡便な口腔ケアチャートが必要と考える。今後、増加が予測される重度認知症高齢者の**QOL**を保持するためにも、彼らの生活の場となる施設・在宅を問わず使用できる口腔ケアチャートの作成は重要な課題と考える。

2. 研究の目的

重度認知症高齢者に対する口腔ケアチャートは、筆者らが平成**26**年度から取り組んでいる研究(基盤**C**)で開発したチャートである。本研究においては、重度認知症高齢者の治療の場である急性期から回復期・終末期を含めた病院、また、生活の場である施設を含めた在宅まで広く汎用化でき、実用可能であることを検証する

3. 研究の方法

1. チャートの内容検討及び口腔ケアチャート作成と実践モデル構築

1) チャートの内容検討 先行研究において、チャートに必要な重度認知症高齢者の口腔ケア時の状態**20**項目とケア実践方法**90**項目を 確定した。それらの項目について、研究代表者と研究協力者である摂食嚥下看護認定看護師**2**名、認知症看護認定看護師**1**名、研究分担者である老年看護教員**1**名、精神看護教員**1**名を含めた**6**名で、文献検討及び、具体的な実践方法を検討する。

2) 口腔ケアチャート作成と実践モデル構築 重度認知症高齢者の状態に適した口腔ケア方法を短時間で選択できる口腔ケアチャートを作成し、それぞれの状態に対して実施する口腔ケア実践モデルを構築する。

2. 看護師による口腔ケアチャートの実践頻度による評価

1) 認知症疾患医療センターを有する**108**施設の看護部長に研究計画書と研究依頼書を用

い，研究目的・意義等の説明を行い，協力の承認・同意書の署名を得る．その後，研究に協力して頂く看護職員を 5 名程度推薦していたたき，協力者にも同様に研究計画書と研究依頼書を用い，研究目的・意義等の説明を行い，研究協力を依頼し，同意が得られた看護職員を研究協力者とする．

2) データ収集方法 研究協力者に対し，初年度に作成した重度認知症高齢者に対する口腔ケアチャートにそって，アンケートを実施した．調査内容は，看護師の属性，口腔ケア項目の実践頻度で構成した．

3) チャートの実用可能性の検討

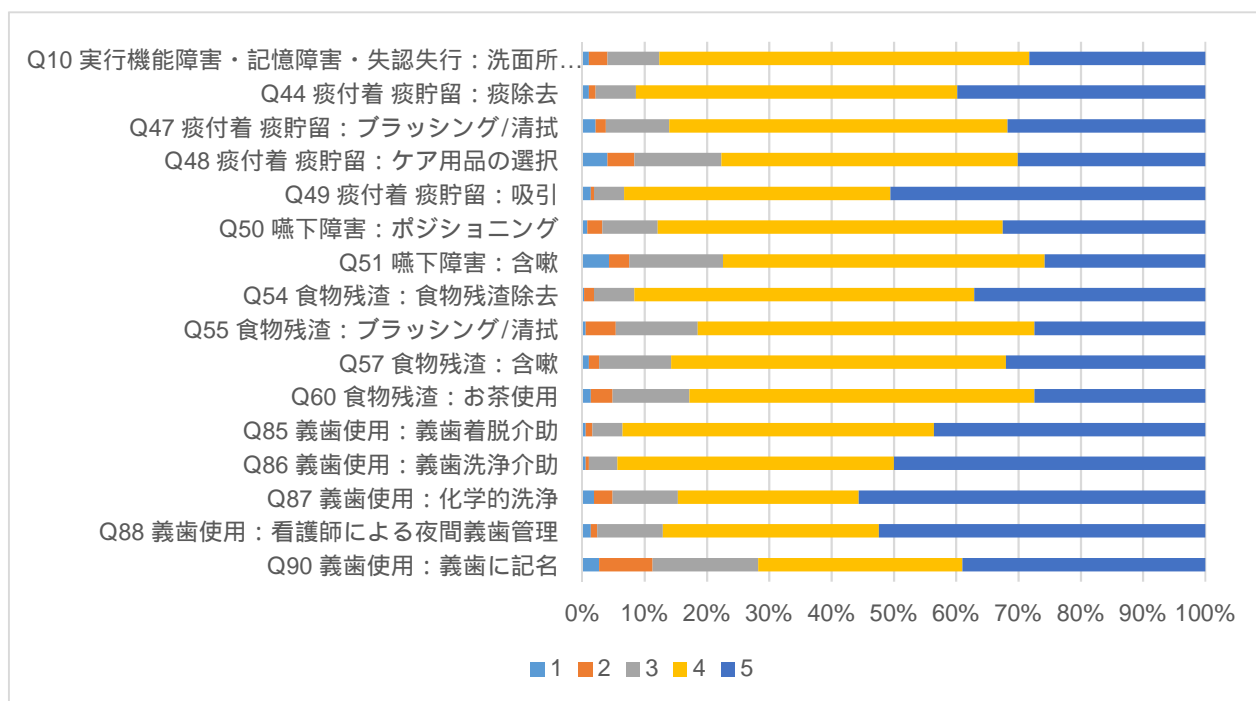
データ分析の結果を基に，チャートの実用可能性を高めるために，実践で使用できるためのチャートの見直しを実施した．

4. 研究成果

看護師の属性として、平均年齢は **41.0** 歳で **305** 人 (**82.0%**) が女性であった。看護師平均経験年数は **17.0** 年であった。認知症治療病棟での看護経験年数は平均 **5.0** 年であった。施設内外の口腔ケアセミナーへ参加したことがある人は **67** 人 (**18.0%**) であった。

1) 高頻度グループ

高頻度グループに属する項目は，実行機能障害・記憶障害・失認失行における洗面所への誘導および，痰付着・痰貯留，嚥下障害，食物残渣，義歯使用に対するケア項目が含まれていた．重度認知症高齢者に特化した口腔ケア項目は，実行機能障害・記憶障害・失認失行における洗面所への誘導が高頻度に分類された．

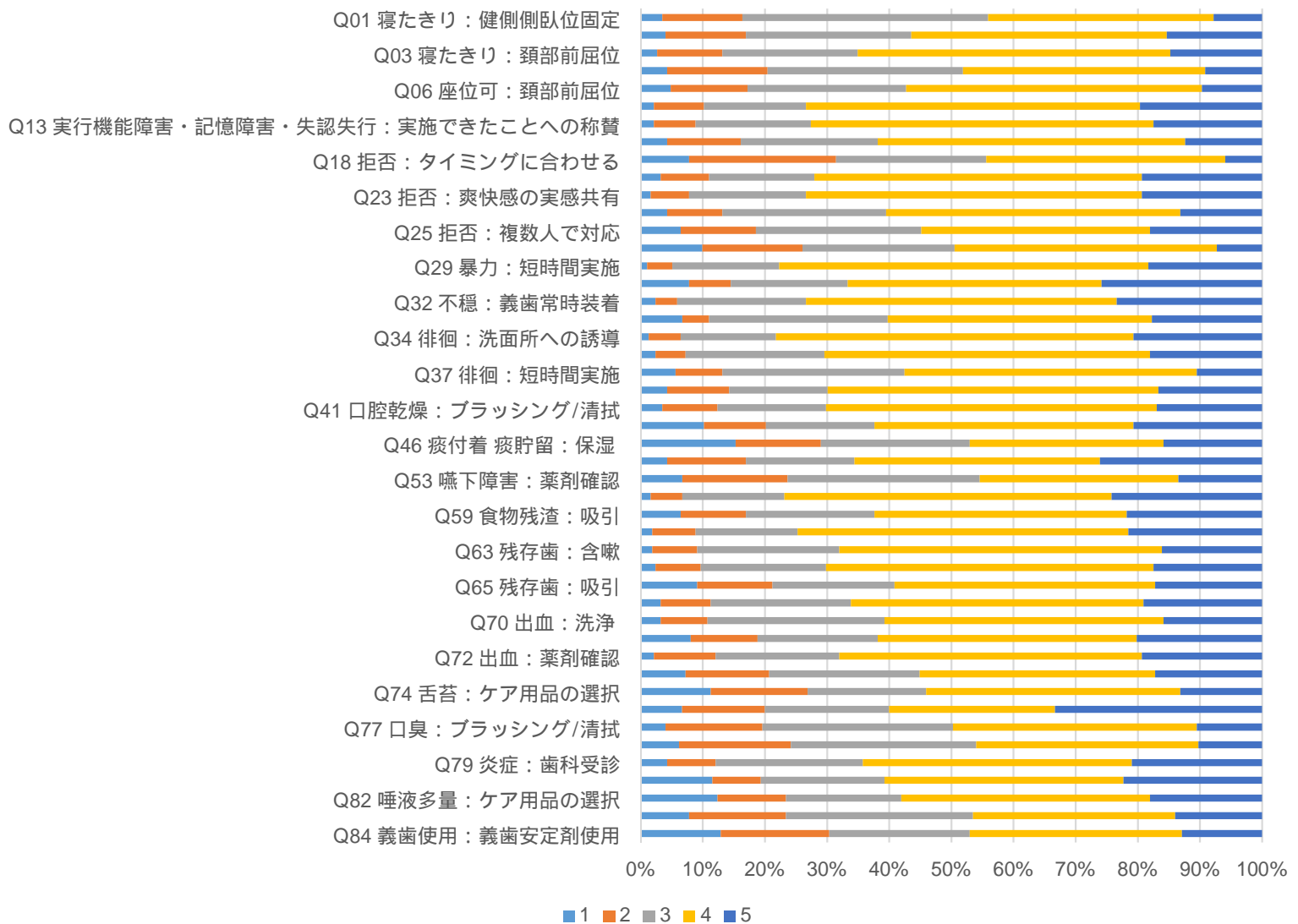


2) 中頻度グループ

中頻度グループに属する項目は，暴力や徘徊などに対する短時間実施，拒否に対するタイミングに合わせるなどの重度認知症高齢者に特化した口腔ケア項目と，嚥下障害，出血に対する薬剤確認，食物残渣，残存歯に対する吸引，炎症に対する歯科受診など口腔内トラブルに対する項目の両方が含まれていた．

3) 低頻度グループ

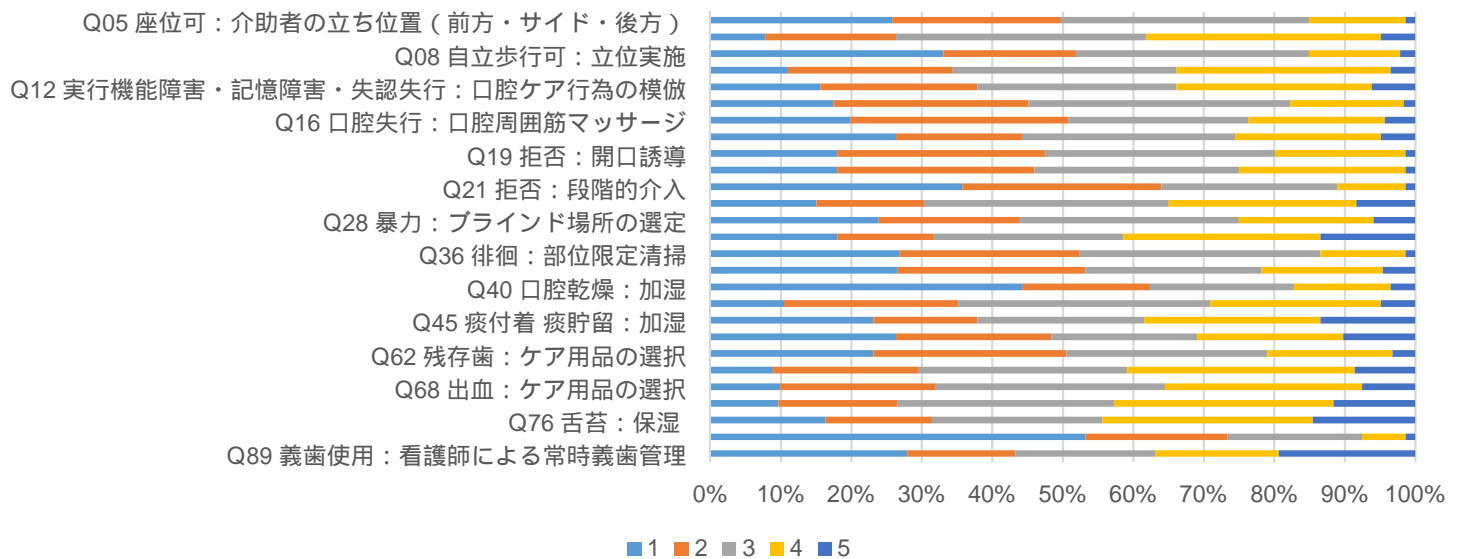
低頻度グループには、実行機能障害・記憶障害・失認失効、口腔失行、拒否、暴力、徘徊に対するほとんどの重度認知症高齢者のケアに特異的な項目が含まれていた。また、口腔乾燥、痰付着・痰貯留に対する加湿、残存歯、出血に対するケア用品の選択、舌苔に対する



保湿という口腔内トラブルに対する項目も含まれていた。

看護師が実施している口腔ケア項目の頻度について、概観すると、認知症症状に特化した口腔ケア項目に関しては、実行機能障害・記憶障害・失認失効における洗面所への誘導が高頻度であったこと以外、低頻度のもの、中頻度のものに大別された。認知症症状別に頻度の違いを比較すると、次のような特徴が示された。

口腔失行時の項目や拒否、暴力時の項目に関しては、専門的な認知症に対する知識が必要となる。看護師が口腔ケア時に無理な項目を進めることで、重度認知症高齢者は口腔ケアに対して不快感やストレスを持つようになり、さらに **BPSD** の症状が悪化することがある。そうなると、ますます口腔ケアの受け入れが困難となる。重度認知症高齢者への関わり方についての知識の習得により、重度認知症高齢者にとって適切な方法で口腔ケアを実施できる可能性が高くなると考える。また、重度認知症高齢者は、口腔ケア実施のために、洗面所等の実施場所への移動が自身で出来ず、看護師による洗面所への誘導が必要であることが明確になった。さらに、実施時間も、食後だけではなく、高齢者の状態を確認して状態が安



定している時間帯を確認し、タイミングに合わせて短時間で実施している看護師が多いことが明らかになった。歯垢は24時間を過ぎると硬くなり始めるため、1日1回は丁寧に除去することが必要⁸⁾であると言われていることから、重度認知症高齢者の状態に合わせた時間に短時間で口腔ケアを実施し、終了後は、爽快感を共有することで効果的なケアにつながることを示唆された。

口腔内トラブルに対する項目における高頻度の項目は、痰付着・痰貯留に対する項目では、痰除去、ブラッシング/清拭、ケア用品の選択、吸引、嚥下障害に対する項目では、ポジショニング、含嗽、食物残渣に対する項目では、食物残渣除去、ブラッシング/清拭、含嗽、お茶使用であった。これらの口腔内トラブルは、日常生活において重度認知症高齢者に一般的に多くみられる症状であり、必要性の高い項目であると考えられる。同様に、義歯使用に対する項目では、義歯装着介助、義歯洗浄介助、化学的洗浄、看護師による夜間義歯管理、義歯に記名であったが、これらの項目も必要性の高い項目であり、経験値により実践可能な項目である。特に、重度認知症高齢者は義歯の認知ができないこともあり、義歯に記名を行うことは必要不可欠と考える。次に、口腔乾燥に対する項目では、唾液腺マッサージや唾液多量に対する項目では、皮膚アイスマッサージが低頻度であった。このように、BPSDを伴う重度認知症高齢者に対して安全に唾液腺マッサージや皮膚アイスマッサージを実施するためには口腔周囲筋の走行や唾液腺の位置、頭頸部の神経などの解剖学的知識やマッサージを実施するための専門的な技術を要する。介護施設職員への口腔ケアに関する調査では、87.7%の職員が高度な知識や技術を身につけたいと思うと答えていたことから、重度認知症高齢者に提供するこれらの口腔ケア方法について実践的な教育が必要であると考えられる。

今回の研究により、看護師に対しては、口腔ケアチャートを用いることで、介入方法が明確になり、統一したケアが実施できるという結果が得られた。今後はさらに、ケアを実施することで、重度認知症高齢者にどのような変化が現れるか明らかにしていく必要があると考える。また、病院や施設、在宅においても、このチャートの汎用化を目指している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小園由味恵	4. 巻 24 (1)
2. 論文標題 認知症高齢者に対する口腔ケアのポイントと基本的な手順	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小園由味恵	4. 巻 24 (2)
2. 論文標題 自立度別, 実施者の介助位置と認知症高齢者の姿勢	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 92-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小園由味恵	4. 巻 24 (3)
2. 論文標題 記憶障害・実行機能障害のある認知症高齢者, 口腔失行が見られる認知症高齢者に対する口腔ケア	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 96-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小園由味恵	4. 巻 24 (4)
2. 論文標題 認知症の行動・心理症状 (BPSD) が見られる認知症高齢者への口腔ケア	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 120-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小園由味恵	4. 巻 24(5)
2. 論文標題 義歯ケアと含嗽ができない場合のケア方法	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 83-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小園由味恵, 笹本美佐, 梯正之, 森川千鶴子	4. 巻 22(2)
2. 論文標題 重度認知症高齢者に対する口腔ケア方法の明確化 - 重度認知症高齢者に対する口腔ケアガイドラインの作成に向けて -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 219-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小園由味恵	4. 巻 24
2. 論文標題 認知症高齢者の口腔ケア	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床老年看護	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小園由味恵
2. 発表標題 重度認知症高齢者に対する 口腔ケアチャートの有用性
3. 学会等名 第45回日本看護研究学会学術集
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小園由味恵
2. 発表標題 重度認知症高齢者に提供されている 口腔ケアの実践頻度における影響因子
3. 学会等名 日本認知症ケア学会第19回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小園由味恵
2. 発表標題 看護管理者が認識する重度認知症高齢者に 提供されている口腔ケアの現状
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小園由味恵
2. 発表標題 認知症疾患医療センターを有する医療施設における口腔ケアの実態
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小園由味恵
2. 発表標題 認知症疾患医療センターを有する医療施設に勤務する看護師が重度認知症高齢者に提供している口腔ケアの現状
3. 学会等名 第35回日本看護福祉学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小園由味恵
2. 発表標題 コロナ禍の今こそ ” 口腔ケア ” を見直そう
3. 学会等名 第35回日本看護福祉学会学術大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	森川 千鶴子 (MORIKAWA CHIZUKO) (50320049)	安田女子大学・看護学部・教授 (35408)	2021年4月22日削除
研究分担者	笹本 美佐 (SASAMOTO MISA) (70568104)	千里金蘭大学・看護学部・教授 (34439)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------